

# チャット部品組み込みガイド（一般対話）


## はじめに

本書は、既存のHTMLにチャット部品(以降、「チャットUI」と記載)を組み込むための手順を示したガイドです。

チャット部品を用いることで、Webブラウザでチャットを行うための部品を組み込み、コーディングレスで本サービスが提供するAPIを利用できます。

本書の対象読者は以下を想定しています。

- 自製のWebサイトにGenerative AI FWと連携するチャットボット機能を追加したいWebシステム開発者

-  本ガイドに記載する「https://<サーバのドメイン名>/」はGenerative AI FWがインストールされているサーバのドメイン名に置き換えてAPIを実行してください。
- 本サービスではHTTPSに既定では自己証明書を使用しています。そのためAPI利用時に考慮が必要です。詳細は「スタートアップマニュアル（導入準備編）」をご確認ください。

## 本ガイドの流れ

本書は、LLMとの一般対話を行うチャットUIを、既存のWebサイトへの組み込む手順を説明します。

以下の手順に沿って説明します。

1. 前提条件の確認
2. WebバックエンドにAPI Keyを返却するAPIを実装
3. WebフロントエンドへのチャットUIの組み込み

本ガイドを実施することで下記の画面のようにチャットUIをWebサイトへ組み込むことができます。



チャットUIの組み込みイメージ

## 前提条件の確認

### 認証情報の準備

組み込むにあたり必要となる、以下の情報を準備します。

- API Key
  - 「セットアップガイド」の「APIキーの更新」にて生成されたAPI Key
- チャットボットモジュールURL
  - `https://<サーバのドメイン名>/js/bundle.js`

### Webバックエンド

API Keyを取得する処理を組み込むためのWebバックエンドが必要です。バックエンドのない静的なWebサイトには組み込むことができません。

### 動作環境

本ガイドの内容は以下のブラウザで動作検証済みです。

- **Microsoft Edge** (バージョン : 131.0.2903.99)
- **Google Chrome** (バージョン : 131.0.6778.205)

## WebバックエンドにAPI Keyを返却するAPIを実装

連携元システムのWebバックエンドに、本サービスのAPIの呼び出しに必要なAPI Keyを返却するAPIを実装します。以下はNode.jsを用いた場合の実装例です。以降では、そのAPIのURLを `http://localhost/token` とします。

```
1 const express = require('express')
2 const app = express()
3 const port = 80
4
5 app.get('/token', (req, res) => {
6   res.send('bearer <API Keyの値>')
7 })
8
9 app.listen(port, () => {
10  console.log(`Example app listening on port ${port}`)
11 })
```

## WebフロントエンドへのチャットUI組み込み

WebフロントエンドにチャットUIを組み込むために、WebページにHTMLに対して、チャットUIをロードするための<script>タグとチャットUIを表示するための<div>タグを組み込みます。

以下はscriptタグに組み込むコード例です。 `'http://localhost/token'` の箇所は「WebバックエンドにAPI Keyを返却するAPIを実装」の手順にて実装したAPI Key取得APIのものに置き換えてください。

modelオプションで対話するLLMを指定することができます。指定可能な値は、管理ポータルの基本情報ページにおける「利用可能なLLM一覧」から確認することができます。

```
1 <head>
2   . . .
3   <script defer type="module">
4     import {mountChatbot} from '<チャットボットモジュールURLの値>'
5
6     fetch('http://localhost/token').then((response) => {
7       return response.text()
8     }).then((token) => {
9       const option = {
10        url: 'https://<サーバのドメイン名>/genai-api/v1/chat',
11        model: 'cotomi-v3.0',
12        systemContent: 'あなたは利用者を支援するAIアシスタントです'
13      }
14      mountChatbot('chatbot', token, option)
15    })
16   </script>
17 </head>
18 <body>
19   . . .
20   <div id="chatbot"></div>
21 </body>
```